

平成 25 年度調査研究等計画書

事業名	沿岸水産資源の持続的利用の推進及び新漁場等の調査（沈設型魚礁調査）		
事業年度	平成 24～26 年	事業費 財 源	(-)649 千円 (国) (諸)
			担当者 漁業資源課 稲葉 太郎・田ノ本 明彦
<p>【背景・目的】</p> <p>県では沿岸漁場整備の一環として人工礁、大型魚礁、並型魚礁等の人工魚礁を長期間にわたり多数設置してきたが、海上測位や沈設物探査の困難性等のために正確な設置位置や詳しい配置状況が明らかでない場合が多く、また、関係漁業者の高齢化とともに、それらの情報が今後不明になってゆくことが懸念される。</p> <p>海洋漁業調査船土佐海洋丸には広範囲の海底探査が可能なマルチビームソナーが搭載されており、これを活用して設置状況などを明らかにする調査を行う。また、漁業者の操業状況（魚礁利用状況）を把握し、水揚データ等を収集して、沈設魚礁の効果を明らかにするための資料とする。</p>			
<p>【事業の概要】</p> <p>① 広範囲の探査が可能なマルチビームソナーで沈設魚礁や天然礁の位置や配置状況を調査する</p> <p>② 標本船に GPS データロガーを設置し操業実態を把握する</p> <p>③ 標本船の水揚データ等を収集する</p>			
<p>【全体計画とこれまでの成果】</p> <p>① GPS データロガーによる操業実態把握（H24-26）</p> <p>② マルチビームソナーによる沈設魚礁設置状況把握（H24-25）</p> <p>・過去に県事業で設置した人工礁、海域礁、大型魚礁、広域増殖場等の調査（H21-23）</p> <p>③ 水揚データの収集（H24-26）</p> <p>④ 沈設魚礁の利用効果把握（H24-26）</p>			
<p>【25 年度計画】</p> <p>① GPS データロガーによる操業実態把握</p> <p>標本船に設置した GPS データロガーのデータを解析し、操業状況を把握する。</p> <p>② マルチビームソナーによる沈設魚礁設置状況把握</p> <p>主たる漁場の沈設魚礁、天然礁の調査を行う。</p> <p>③ 水揚データ等の収集</p> <p>水揚データや聞き取りにより魚礁での漁獲データを収集する。</p> <p>④ 沈設魚礁の利用効果の把握</p> <p>得られたデータから、沈設魚礁利用効果の解析を行う。</p>			
<p>【成果目標】</p> <p>① 漁業者に沈設魚礁の設置位置、設置状況の情報と正確で見やすい海底図を提供する。</p> <p>② 魚礁ごとに標本船の利用状況（頻度、時間）を把握する。</p> <p>③ 効果の大きい魚礁は、構造物や配置方法など今後の検討材料となる。</p>			
<p>【期待される効果】</p> <p>沈設魚礁の有効利用、魚礁整備方針等へ本調査結果を反映させることができる。</p>			